



▲空からみた大倉山の全体（昭和47年撮影）

「むかし」の大倉山

大 倉山が「山」ではな
 かったことをご存じで
 しょうか。現在の所在地は、
 「宮の森一二七四番地」です
 が、この位置に初めてジャン
 プ台が建設されたころは、札
 幌郡琴似村大字琴似村の「オ
 ンコの沢上流高地」と呼ばれ
 ており、札幌神社（現在の北
 海道神宮）の外苑飛び地とし
 た。

の「オンコの沢上流高
 地」にジャンプ台が造
 られたきっかけは、スポーツ
 好きで知られた、昭和天皇の
 弟宮の故秩父宮が「札幌に世
 界にも通じるような大きなジ
 ャンプ台が必要」とおっしゃ
 ったことが始まりです。その

話を聞いた当時の北海道大学
 スキー部長の大野精七博士が
 ジャンプ台造りに情熱を注ぎ、
 この地にジャンプ台が造られ
 ることになりました。

大 倉とは、昭和六年初
 代ジャンプ台を建設す
 る際に資金を提供した「大倉
 喜七郎男爵」の名に由来する
 もので、このジャンプ台は
 「大倉ジャンツェ」と名付け
 られました。その建設費は、
 五万四十八円だったとのこと
 です。

このジャンツェの開場式は、
 昭和七年一月に行われ、記
 念すべき最初の飛行距離は、
 三十四メートルに終わりました。

昭 和二十八年に「大倉シ
 ャンツェ」は、それま
 での60級から80級に改修、
 その北側に70級のジャンプ
 台「雪印ジャンツェ」が新設
 されました。一時期、大倉山
 には大小二つのジャンプ台
 （写真・表紙参照）が併設さ
 れ、この二つの台を札幌オリ
 ンピックで使用する案もあっ
 たそうです。しかし、オリ
 ンピックに使用するには敷地が
 狭いことから、宮の森ジャン
 プ台を建設しました。



▲昭和47年（札幌オリンピック当時）
 提供：札幌市写真ライブラリー

そ の後、昭和四十五年に
 札幌オリンピック開催
 のため大改修した時に、ドイ
 ツ語の「ジャンツェ」を英語
 読みの「大倉山ジャンプ競技
 場」と変更しました。その時
 に「山」の一字が付け加えら
 れ、それ以来「大倉山」と
 呼ばれるようになりました。

の「大倉山ジャンプ競技場」
 を中心とする「大倉山」
 は、FIS※のルール改正に
 伴い平成八年にジャンプ台が
 全面改修し、「札幌ウインタ
 ースポーツミュージアム」や
 競技場リフトなどの周辺施設

「いま」の大倉山

の「大倉山ジャンプ競技場」
 を中心とする「大倉山」
 は、FIS※のルール改正に
 伴い平成八年にジャンプ台が
 全面改修し、「札幌ウインタ
 ースポーツミュージアム」や
 競技場リフトなどの周辺施設

の「大倉山ジャンプ競技場」
 を中心とする「大倉山」
 は、FIS※のルール改正に
 伴い平成八年にジャンプ台が
 全面改修し、「札幌ウインタ
 ースポーツミュージアム」や
 競技場リフトなどの周辺施設

が、平成十二年までにリニ
 ーアルオープンされました。
現 在、日本のラージヒ
 ル・ジャンプ台は、長
 野県白馬と大倉山の二カ所
 のみで、大倉山は、サマージ
 ャンプやナイター設備も備えて
 おり、ワールドカップなど国
 際大会の舞台となつていま
 す。また、二月二十二日(木)から開
 催されるFISノルディック
 スキー世界選手権札幌大会の
 会場でもあり、世界からも注
 目されています。

ま た、展望台からの眺め
 は、札幌の街並みが一
 望でき、冬期間以外でも楽し
 める施設に変貌しています。
 ※FIS（国際スキー連盟）



▶展望ラウンジの様子

大倉山のあゆみ

①昭和十年ごろ



②昭和四十五年ごろ



③昭和四十七年ごろ

